

他市町村の総合計画将来像・基本目標の事例

1 北信地域

■中野市（平成28年度から令和7年度 令和4年度から後期基本計画）

【将来都市像】緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち

【将来都市像に込めた思い】

- ・「緑豊かなふるさと」という表現には、「故郷（ふるさと）」の歌に代表される恵まれた自然環境と景観を大切にし、自然との共生を根幹として充実した人生を送るという意味が込められています。
- ・「文化が香る」という表現には、本市出身の国文学者「高野辰之」、作曲家「中山晋平」、「久石譲」などの文化人や音楽、土びなや各地に伝わる民俗芸能など伝統文化を受け継ぎ、郷土の誇りを大切にする心を育てるとともに、住民同士が交流していくという意味が込められています。
- ・「元気なまち」という表現には、この地に住み、働き、勤勉と努力で新しい価値を創造し、自助自律の未来を築きながら、元気に歌声を合わせるように協力し合うという意味が込められています。

【基本政策】

- 基本政策1 未来のふるさとを担う子どもたちを育むまちづくり（子育て・学校教育）
- 基本政策2 支えあい健やかに暮らせる健康長寿のまちづくり（健康・福祉）
- 基本政策3 にぎわいと活力あふれるまちづくり（産業・雇用）
- 基本政策4 ふるさとを学び育つ文化のまちづくり（文化・生涯学習）
- 基本政策5 安心・安全な住みよいまちづくり（定住環境）
- 基本政策6 市民参加と協働のまちづくり（協働・行政経営）

■木島平村（平成27年度から令和6年度 令和2年度から後期基本計画）

【村の将来像】これからの農村を生きる ーみんなで 楽しみを つくりだす村ー

【説明文】

【これからの農村を生きる】には、日本全体で社会・経済環境の変化や価値観が多様化している中で、【木島平村＝農村】に暮らしていくということがどういうことなのか、村民の皆さんに見つめなおして欲しいというメッセージが込められています。まさに、都市にはない木島平村だけにある価値や新しい取り組みを生み出していくために、行政だけではなく、村民や各団体、そして集落が自ら原動力となり、地域を動かし、村を動かし、社会を動かしていくという想いが、「今後も住み続けていきたいと思える村」づくりに繋がっていきます。

サブタイトルは、【みんなで楽しみをつくりだす村】と定めます。木島平村では、今後、人口の減少、産業規模の縮小など喫緊の課題に直面してることが予測されています。その中で、各課題を乗り越えるために必要となるのは、村民や集落の主体性や支えあいによるマンパワーです。さらに重要になるのが、この村の暮らしの中に【楽しみ】を見出すことです。【楽しみ】は、様々な活動の継続性や人のつながりを生み出す源になります。【楽しみ】を暮らしの土台とすることで、これからも木島平村で暮らし続けていきたいとの想いが深まります。

また、木島平村で学び育った子どもたちが帰ってきたい、帰って来られる村の土台づくりを行っています。今後も木島平村で暮らすことで豊かさを再認識し、木島平村という農村に暮らすことの誇りや愛着を醸成していくと共に、健全な財政運営のもと、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を定め、活力に満ちた持続可能な村づくりを進めていきます。

【基本目標】

そだてる 『未来と安心をそだてる』

今後の未来も子どもを育てながら安心して生きていける村を目指します。

（子育て・幼児教育・学校教育・生活基盤・健康・福祉・地域医療・生活安全）

つくる 『産業と仕事をつくる』

村民が支えあいながら、地域の資源を生かした産業と仕事をつくりだせる村を目指します。

（農林業・商工・観光・木島平ブランド・6次産業・第3セクター・移住定住・情報通信）

まもる 『自然と文化をまもる』

美しい自然と豊かな文化を維持することで、誇れる村を目指します。

（自然エネルギー・景観形成・循環社会・文化）

つなげる 『人と地域をつなげる』

人と地域をつなげることで、助け合いながら楽しく過ごせる村を目指します。

（生涯学習・若者連携・集落対策・人権）

■野沢温泉村（令和2年度～11年度 令和2年度から前期基本計画）

【将来像】胸湧きたち 未来へ歩み続ける 湯の郷・野沢温泉

【説明文】

＜胸湧きたち＞

本村には、海外や国内のあらゆる地域から人々が集い、賑わいを見せます。誰もが「どきどき」「ワクワク」するような期待をもって本村を訪れ、また実際に訪れた時には、その期待が興奮へと変わる。そして、村民自身も常に「どきどき」「ワクワク」しながら生活を送れるよう、心が躍り人が集うむらづくりを推進します。

＜未来へ歩み続ける＞

本村は、外国人観光客や、移住者の増加などにより大きく変化してきています。それが新たな文化を生み出したり、さらに発展するきっかけにもなります。今後も、先人が守り続けてきた自然と独自の文化を後世に伝えるとともに、夢のもてる限りない未来を創出します。

キャッチフレーズ：次世代へつなぐ みんなのふるさと野沢温泉

【基本目標】

- 基本目標 1 わいわい賑やかなむらづくり（観光産業・商工業・農林業）
基本目標 2 ゆうゆう快適安全なむらづくり（環境保全・生活環境・道路交通網・消防防災・住宅対策）
基本目標 3 すくすく子育て・いきいき元気に暮らせるむらづくり（子育て支援・高齢者支援・障がい者支援・医療）
基本目標 4 のびのび元気に学びのむらづくり（学校教育・生涯学習・文化財・人権対策）
基本目標 5 にこにこ触れあい連携するむらづくり（コミュニティ・交流事業・行財政改革）

■栄村（平成 29 年度～令和 8 年度 令和 4 年度から後期基本計画）

【将来像】知恵と和で築く日本一安心できる村

【解説文】

「知恵」とは住民と役場職員が共に考える“力”を表しています。

「和」とは住民が主人公の村づくりという“姿勢”を表しています。

「築く」とは住民と行政が村づくりをする“行動”を表しています。

【計画の柱】

- 1 活力あふれる村づくり（産業の振興）
- 2 健やかに暮らせる村づくり（健康と福祉）
- 3 豊かな心を育む村づくり（教育と文化）
- 4 安心して暮らせる村づくり（生活基盤の整備）
- 5 自律と協働の村づくり（集落支援と行政）

■山ノ内町（令和 3 年度～令和 12 年度 令和 3 年度から前期基本計画）

【将来像】未来に羽ばたく 夢と希望のある 健康な郷土（まち）

【解説文】

山ノ内町は、恵まれた豊かな大自然と、その恩恵を受けて「観光と農業」「生命と暮らし」をテーマ（→補注：証明されるべき最初の命題・主張）に発展してきました。自然豊かな郷土は、先人たちが守り、育て、伝えてきたかけがえのない財産であり、次世代に引き継いでいくことで、郷土に自信と誇りを持ち、一人ひとりが夢と希望をもって未来に羽ばたく礎となります。

我が郷土（まち）の観光や農業の振興、生命と暮らしを守り、にぎわいの創出に向けて、新しい発想で取り組む原動力が大切です。

21 世紀は「平和と環境の時代」であり、何にも増して、健康は町民（ひとびと）や郷土（まち）づくりにとって「幸福の基礎」であります。

未来に羽ばたく子どもたちへ“夢と希望のある郷土（まち）”を育むため、町民や企業、行政が互いに絆を大切に、地域の自主性と自立性、独自性を発揮しながら、新しい郷土愛・魅力あふれる“健康な郷土（まち）”の更なる創造を目指します。

【基本目標】

- 1 ひとがつなぐ、魅力あふれる産業と交流の郷土（まち）（産業・交流・移住定住）
- 2 いきいきと暮らす、元気が満ちる健康な郷土（まち）（保健・医療・福祉）
- 3 未来に羽ばたく、豊かな文化と学びの郷土（まち）（教育・文化・スポーツ）
- 4 自然と生きる、暮らしの希望を叶える安全な郷土（まち）（都市基盤・自然環境・生活環境・防災）
- 5 みんなが活躍する、絆の力で地域が活きる郷土（まち）（協働・行財政・人権）

2 その他近年策定された計画の事例

■長野県飯島町（令和3年度～令和12年度 令和3年度から前期計画）＜他の県内自治体の例＞

【将来像】新しい発想で考える アルプスのまち 豊かな未来・自然・暮らし

【説明文】

飯島町は、中央アルプスと南アルプスの、ふたつのアルプスが見える町です。ふたつのアルプスは、この地に清らかな水や空気、豊かな自然を育み、遠い昔から今日まで、町に暮らす私たちの営みに恩恵をもたらし、心を癒し、明日への活力を与え続けています。先人たちから受け継いだこのかけがえのない風土を、磨き上げながら次の世代へ引き継ぐことは、ここに暮らすみんなの変わらない願いと言えます。

日本全体が人口減少の時代を迎えました。人口減少による経済の縮小や、社会基盤の維持を心配する一方で、住民の多くは、人口数よりも考え方や暮らし方を見直していくことを提案しています。整備が進められるリニア中央新幹線や三遠南信自動車道は、この地に新しい対流を生みだすと言われています。進化を続けるコンピュータやネットワーク技術は、今まで山間の地に暮らす私たちの社会的な課題の解決にも役立てられていきます。また、新型コロナウイルス感染症に端を発した「新しい生活様式」は、生活や仕事のスタイルに大きな変容をもたらし、対応が迫られた一方で、都市部にはない新しい価値観をこの町に生みだそうとしています。

今、時代は転換の時を迎えたと言われています。ふたつのアルプスをはじめとする自然との調和を保ちながら、ここに暮らすみんなが、新しい発想をもって、心の豊かさや幸せを実感できる、魅力あるまちづくりを実践していく。そういう姿にこそ、将来に渡って暮らしやすいまちがあると考え、まちの将来像を定めたものです。

【分野別基本施策】

- 1 住民と行政の創合力による 安全で安心なまちづくり（防災・先端技術・情報・交通・）
- 2 美しく快適な暮らしの環境を 将来へつなぐ（低炭素・循環型、観光、税収確保）
- 3 誰もが健康で居場所と出番があり 共に支え合える地域づくり（健康、医療、福祉）
- 4 地域特性を生かした 産業の創造と振興のまちづくり（産業）
- 5 暮らしを支える 強靱で快適なライフラインの創造（基盤整備）
- 6 魅力向上で住みたい・住みたい地域づくり（観光まちづくり、移住定住、結婚支援、自治組織）
- 7 「子どもの元気」と「学びの力」で いきいき豊かな暮らし（子育て支援、学校教育、社会教育）
- 8 将来像を実現する 創造力にあふれた行政基盤づくり（行財政）

■新潟県加茂市（令和3年度～令和12年度 令和3年度から前期計画）＜隣県自治体の例＞

【将来像】「笑顔あふれるまち 加茂」

【将来像に込めた思い】

加茂市が目指すのは、「笑顔あふれるまち」です。加茂市に暮らす人、加茂市を訪れる人、すべての人に「笑顔」があふれるまち、そんなまちをつくれます。

では、どうやって笑顔を作っていくのか。笑顔になるのは「人」、つまり「人」を中心に加茂市は何が大切かを考え、次の2つのことに重点的に取り組みます。

- ・市民が生涯にわたって健康であること。
何をするにも体が第一、健康を基本に考えます。
- ・教育や文化を大切にすること。
人生を、心を豊かにする、教育や文化に力を注ぎます。

また、行政の取組だけでは、「笑顔あふれるまち」はつくれません。市民一人ひとりが、みんなの笑顔のために、人とひととの共生、人と自然との共生を目指し、行動することが大切です。

- ・どんなに技術が進歩しても、人とひとのつながりと支えあいを大切にすること。
- ・国籍、性別、年齢、障がいの有無を超えた多様性（ダイバーシティ）を受け入れ、それぞれの個性や魅力を活かし（インクルージョン）、まちづくりの原動力にすること。
- ・加茂の自然を大切にするとともに、地球環境にも寄り添う意識を持ち続けること。

市民がこの3つを心がけ、行動することで、人々の笑顔があふれ、未来につながるまちができると考えます。

行政も「もっと良い方法はないか」の改善の精神とともに、市民の声に真摯に耳を傾け、「笑顔あふれるまち」を実現していきます。

【基本目標】

- 1 未来を担う子どもたちが夢と希望にあふれ育つまち（子育て・教育）
- 2 とともに支えあい、だれもが安心して健やかに暮らせるまち（健康・福祉）
- 3 安全・安心で環境にやさしいまち（生活・環境、生活基盤）
- 4 学び、集い、ふれあって、自分らしく活動できるまち（芸術・文化、スポーツ、自治・人権）
- 5 人が集い、賑わいと活力があふれ、稼ぐ力と雇用を生み出すまち（都市の魅力創造、産業・雇用）
- 6 社会の変化に対応し、市民に寄り添い、未来への責任を担うまち（行政活動）

■兵庫県丹波篠山市（令和3年度～令和12年度 令和3年度から前期計画）＜関西の自治体の例＞

【将来像】「丹波篠山」だからこそ実現できる あなたの夢・安心・未来

【解説文】

丹波篠山市は、京阪神から1時間程度で行き来できるにもかかわらず、恵まれた自然や歴史・文化を有し、地域のなかでは緊密なコミュニティを有する、暮らしの環境が整ったまちです。

丹波篠山市がめざす、市民が「幸せ」と感じられるまちづくりとは、利便性や経済性を追求した都市的なまちづくりばかりではなく、「農」と「食」を基盤として、地域資源とともに生きる共生のまちづくりです。近年、日本遺産の認定やユネスコ創造都市ネットワークへの加盟など、丹波篠山市が地方都市の発展モデルとして注目されるようになった背景には、先人による農の営み、伝統的なまちなみや各地の祭礼、丹波焼・王地山焼などの伝統技術など、歴史や文化、自然環境を大切に育み、継承しながら新たな発展を模索してきた経緯があります。そこには、数多くの人々が関わり、協力しあってつくりあげてきました。これからも私たちは、その思いを受け継ぎ、日本の原風景と誇れる優れた景観やふるさとの豊かな自然を守ってきた「食と農の都」として、一人一人が主役となれるまちづくりに取り組みます。

そして、「丹波篠山」だからこそ ここに関わる一人一人が安心できる暮らしの中で夢や未来を実現するチャンスがあるまちとして選ばれるよう、めざす将来像を次のとおりとします。

【基本目標】

- 1 市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり（住民自治・暮らし・生活基盤）
- 2 すべての人が尊重され、生き生きと暮らせるまちづくり（福祉・健康・子育て・教育）
- 3 地域に根ざした産業とうるおいのあるまちづくり（環境・産業）
- 4 良好な景観や伝統文化を大切に継承し、活用するまちづくり（景観・歴史・文化芸術）
- 5 市民と行政が手をたずさえて取り組むまちづくり（情報公開・行財政運営）
- 6 丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり（ブランド創造・プロモーション）